

# (仮称)練馬区農の学校実施計画(素案)に対する 区民意見等の概要と区の考え方について

## 1 区民意見反映制度に基づく意見募集

### (1) 周知方法

平成25年2月1日号ねりま区報および区ホームページに掲載

### (2) 募集期間

平成25年2月1日から平成25年2月20日まで

### (3) 意見の受付状況

区 分	人 数	件 数
郵送	1	
ファックス	0	
電子メール	5	
持参	1	
合 計	7	12

## 2 意見等の概要と区の考え方

- ◎ 計画に反映した項目 (0件)
- 既に趣旨が記載されている項目 (8件)
- 個別事業において検討する項目 (4件)
- 対応できない項目 (0件)

(1) (仮称) 練馬区農の学校実施計画全般について

No.	意見の内容 (要旨)	区の考え方	対応状況
1	これからの高齢化社会で、農家を支える取組として(仮称)練馬区農の学校に期待している。実現に向けて、着実に取り組んでほしい。	(仮称)練馬区農の学校は、平成26年度中の開設を目指して、着実に取組を進めます。	○
2	都市農業の発展充実のために(仮称)練馬区農の学校の設置には賛成である。また、日本の農業を隆盛に導くには、若い担い手を育てあげることが必要である。	(仮称)練馬区農の学校基本計画では、練馬区の都市農業に求められる人材像を定めており、農に係る人材育成を東京都などと役割分担の上、進めることとしています。多様な魅力ある都市農業を展開するため(仮称)練馬区農の学校は、都市農業・農地の大切さなどを理解する区民の裾野を広げ、農業者を支援する支え手を育成していきます。	○
3	大学の農学部が行っている野菜工場の取組などは都市農業の未来像になる。(仮称)練馬区農の学校の参考にするとうい。	農業分野でも日々、技術は進歩しており、そうした変化の情報収集に努めます。	□

(2) 人材育成・活用に関する取組について

No.	意見の内容 (要旨)	区の考え方	対応状況
4	コースを分けて、段階を追ったカリキュラムであれば受講生のレベルにあった受講ができる。結果として、受講生が増え、(仮称)練馬区農の学校の活動に参加する区民が増えてよい。	(仮称)練馬区農の学校では、多様な区民が参加いただけるよう農とのふれあい体験から、農業従事者の支え手まで、都市農業に関する様々な知識や技術を段階的に学ぶことができる場を提供いたします。	○

No.	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
5	食の安全性がよく話題に上る。（仮称）練馬区農の学校では、農薬や肥料などの化学物質を極力少なくし、種子も日本で採取されたもの、そして遺伝子組み換えでないものを使ってほしい。	実際のカリキュラムで使用する農薬、肥料などは、JA 東京あおばと検討しながら、安全安心な野菜作りを行います。	□
6	練馬大根などの古来からの野菜を育てるなど、地域に合った、安心安全な野菜を育てることを学べる場になるとよい。	カリキュラムで行う実習では、安心安全な野菜作りを行っていきます。また、全国ブランドである練馬大根をはじめ、様々な野菜作りを取り入れる予定です。	○
7	（仮称）練馬区農の学校の受講料は、安すぎず高すぎず、受講生が責任を持って受講する適正な価格設定とした方がよい。	（仮称）練馬区農の学校の運営費用及び講師代、傷害保険料、教材費その他必要経費を勘案しつつ、開設までに具体的な検討を進め、適正な受講料を設定します。	□
8	有料での運営ならば、誰にでも気軽に使いやすい値段設定にしてほしい。（仮称）練馬区農の学校の受講料は、区民農園、市民農園のように気軽に申し込める価格設定にしてほしい。	（仮称）練馬区農の学校の運営費用及び講師代、傷害保険料、教材費その他必要経費を勘案しつつ開設までに具体的な検討を進め、適正な受講料を設定します。	□
9	育成された人材が効果的に活躍できるような仕組みをぜひ整えてほしい。	（仮称）練馬区農の学校を修了した人材が都市農業の支え手として活躍できるよう、農業者への支援や区民農園・市民農園の管理など、様々な活躍の場を提供できる仕組みを整えます。	○

No.	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
10	修了生の活動について、事前に計画されていることはよい。すべてが（仮称）ねりま農のサポーターとなるのか。出口の活動は、修了生が幅広く選択できるようにした方がよい。	（仮称）練馬区農の学校を修了した後の活動は、基本的には（仮称）ねりま農サポーターへの登録していただき、農業者への支援や区民農園・市民農園の管理などの支援へ参加いただくことを考えています。また、この他にも様々な選択肢を想定して、幅広く都市農業・農地を支える活動に取り組めるようメニューを工夫しています。	○
11	人材を活用するには、受け入れをする農業者の育成も必要である。農協では農業者向けに勉強会も行っている。（仮称）練馬区農の学校と農協が連携して、支え手を必要としている農業者を（仮称）練馬区農の学校へつなぐとよい。	人材活用を進めるためには、活用する農業者に（仮称）練馬区農の学校で育成する人材や、人材の活用方法について知っていただくことが重要であると考えています。そのため、農業者に向けた人材活用に関する情報提供や手引きの作成、（仮称）ねりま農サポーターと農業者の交流機会の創出などを進めます。また、（仮称）練馬区農の学校運営協議会には JA 東京あおばからも参加いただく予定であり、連携していきます。	○

### (3) 施設及び用地について

No.	意見の内容（要旨）	区の考え方	対応状況
12	畑は交通の便の悪いところに多いが、（仮称）練馬区農の学校は区民が通いやすい立地としてほしい。	用地選定及び施設整備の方針の一つとして、区民の通いやすい立地に配慮することとしています。	○